

人材育成ゆふいん財団ニュース

■発行日／2007年3月10日 第42号 ■発行／(財)人材育成ゆふいん財団
■発行人／理事長 溝口薰平 ■編集責任者／常務理事 佐藤晶 ■編集／事務局企画委員会編集部
■住所／湯布院町川上2863 (クアージュゆふいん内) TEL85-4748 FAX85-4759
■E-mail／zd21yufu@dream.ocn.or.jp

人材育成ゆふいん財団

リレー講演会第一回が開催されました！

『文化は《人》ではないかと思います。そして、この故郷に人々が息づいていくことが大切。この地で生きていることに感謝します』

第一走者：中西ちせ評議員（人形作家・石松）

財団法人人材育成ゆふいん財団には、計25名の役員の方々がいます（理事10名、評議員15名）。

今回始まった「リレー講演会」、その役員の方々それぞれに、得意分野をテーマにお話ををしていただき、人の話を聞くことから今一度、人材育成のことや町の将来のことなどをみんなで考えていくことを企画されたものです。

その第1回目となる今回は、財団関係者とそこから繋がる方へご案内をさせていただき、第一走者として、平成5年よりゆふいん財団の評議員として財団活動に参加、協力をしている、中西ちせさんに講師をお願いしました。

中西さんはギャラリーを主宰しながら、ご自身も人形を創作している陶人形作家です。「人形を創る」暮らしを通して、またゆふいん財団を通して伝えようとしている中西さんのメッセージを、みなさんにご紹介します。



「自分の創りたいものを自然体で創る」

「そもそも陶人形を作りたいと思って陶芸を始めたわけではなかった。ただ、器を作つてみても横にちょっと顔をつけてみたりしていたから、違うものを作りたいという想いは、もともと自分の中にあったんでしょう。当時師事していた先生の、「自分の作りたいものを作つてみたら？」という言葉に誘われて、ごく自然な感じで人形創りを始めました。」

一方的に話を進めていく事が苦手という中西評議員の講演会は、インタビュー形式で始まりました。

家族と共に、永く暮らして京都を離れ生まれ育った湯布院へ帰ってくるとき、人形を創るきっかけとなる言葉をくださった先生と交わした約束。

「どんなことがあっても、一年に一度は必ず自分の個展を開きなさい」

この言葉は、中西さんの



中で、故郷・湯布院で本当に創りたいものと向き合う心意気となり、現在もなおその約束をしっかりと果たしているそうです。

最初の頃は、ゆふいんの女神を創りたいと思っていました。ゆふいん伝説の中に、必ずでてくる《宇奈岐日女》という女神様がいらっしゃるでしょう。でも少女なのか、おばあさんなのか、どの文献を見ても書いていないんです。だから、私なりの想像で、ゆふいんを陰からひっそりと、でもしっかりと守ってくださっている母のような女神を創つてみたかったんです。でも、まだ納得できるヒト型は出来ていません。」

中西さんの人形を見せていただくと、その姿、形、ほんのりと見える表情から

【母性】を感じます。

中西さんは言いました。
「人には必ず、お母さんがいます・・・」と。「その母なるものから生まれてきた事への感謝、そして、こ



の地で生きていることに感謝したい。ここで色々なものをいただいたから、その分還元していくかなければならぬと思っています。

昨今テレビや新聞では、前向きな情報が少ない。少しでも前向きな心の表現をと思ってはいるけれど、その表現方法が難しい。この生命を育んでくれている地球と言う名の星への深い感謝の気持ちを、何とか具現化したいと思っているのですから…。地球はもちろん球体で…丸いものが一番パーフェクトに近い形じゃないかと思うんです。だから私の人形は、丸い感じの形になるのかもしれない。」

地球の表現と言わると、ものすごく大きなものすぎて想像がつきませんが、ごく身近な自然、感じる風を表現したいという想いから勝れ上がりしていくものなのかもしれません。中西さんのような人形作家、また、絵描きさんや写真家など様々な芸術家の方がいらっしゃいますが、ごく普通にある【モノ】を、違った目線からみることができるからこそ、私たちが楽しめるモノが構成されていくのでしょうか。

清風朗月

一銭の買うを用いず

《清々しく吹く風、明るく輝く月を眺め味わうには、一銭の金銭もいらず。誰にでも自由にできることである》

唐の詩人、李白の詩句です。

中西さんのお話を聞いていて、ふと、この詩句が頭の中をよぎりました。

「京都で見て触れて感じてきた神社や仏閣には、ものすごい歴史があります。その部分は、ゆふいんに居ては到底表現できない。かないません。だけど、ゆふいんには自然があります。四方囲まれた山々や吹き渡る風は、京都においては感じられません。

このゆふいんの風や空気をヒト型に取り込んでいきたい。昨年、NHK連続テレビ小説



で放映された「風のハルカ」のオープニングの映像を見て、とても感動しました。美しい処に住んでいるという幸せがそのまま映像になっていて、表現したいものそのものだった。」

自然をヒト型に取り込んでいくことは難しいと言っていますが、自然を《母なるもの》だと考える中西さんが、その想いから創作された人形には、それは見事に表れています。

「最近は、芸術を楽しもうという時、その作家さんのプロフィールから入っていく方が多い。そうなるとその作家自身の評価ではなく、「○○さんのお弟子さんだからこうい

う形なんだ」と、勝手に解釈してしまうようになる。そうではなく、それぞれの目から、本当に良いもの、本当に好きなと思うものそのままに感じていただきたい。」

これから、ゆふいんで大切にしていきたいのは《文化》だと中西さんは言いました。

その文化が変わったという感想を述べた方がいます。あらゆる想像力が今のゆふいんの中では感じられない、現実の姿から想像をおこそうとせず、得た情報のみで想像しようとするることは寂しい…と。

「文化は《人》ではないかと思います。そして、ここに人々が息づいていくことが大切。

次世代を担っていく子どもたちの目に触れるものが本物で、心温まるものであってほしい。そして真っ直ぐ、健やかであってほしい。そう願う私たちが子どもたちに残せるものは何でしょうか。

ここで生きていきたい、この自然が大好きであるというものが、そのまま残っていってほしいと思います。これ以上汚してほしくないと願います。自分の人生という持ち時間の中で、色んな人と繋がっていきたい。色んなことを感じて、それを自分の中に取り込んでいきたい。

その《希い》を人形という、私が表現出来得るヒト型に込めていきたいと思っています。」

(事務局／後藤郁子)



中西さんの講演を聴いた方
から、想いのこもった俳句
をいただきました。
ありがとうございました。

～春～ 春は別れの季節、そして始まりの季節



3月に入り、湯布院町内の小中学校で卒業式が行なわれました。小学6年生、中学3年生、ご卒業おめでとうございます。

さて、中学3年生はここで9年間の義務教育が終了いたします。ここからは、それぞれ進学や就職と、バラバラな進路を進むことになります。今、心の中には大きな期待や希望、そしてたくさんの不安があるかと思われます。しかし、もし大きな壁にぶつかろうとも、ここで過ごした思い出や多くの友達とのつながりは、きっと闇から救つ

てくれることでしょう。卒業とともに消えてしまうわけではないのですから。

安部湯布院中学校長からいただいた二つの言葉、「愛すること」と「勇気を持つこと」は、これから出会う人たちに対する、思いやりや優しさの糧となることだと思います。まずは自分自身を愛すること、そして懐の深い人間になれるよう、心の中に大切に持って、それぞれの進む道を歩んでいってください。ご卒業、真におめでとうございます。



3月1日、由布市役所湯布院庁舎の隣、花の木通りに足湯が設置されました。花の木通りのお客様、役場を訪れる方、観光に訪れた方など、たくさんの方が利用できます。ぜひ覗いてみてください。



花の木通りといえば、毎月のお楽しみがありますよね。手作りの小物を季節に合わせて飾っています。今月はお雛様でした。竹取物語のかぐや姫を思わせるような

ものもありました。

このように、商店街の方が前向きな取り組みをしていけることはとても素敵です。そういうえば、温湯地区の方も自主的に川掃除をしたり、それぞれの地域で「地域を守る」作業をして

いるんですね。将来にわたり、美しい自然のなかで生活していきたいものです。これからも、地域のためによろしくお願ひいたします。



3月1日、春の訪れと共に、毎年恒例の「辻馬車開き」が由布院駅前で行なわれました。

由布院に辻馬車が走り始めてから、今年で33年目になります。昭和50年、大分県中部地震により、「湯布院壊滅説」がマスコミに取りざたされたそうですが、当時の観光協会の方々が「ゆふいんはとっても元気ですよ！」と辻馬車に乗ってPRをしたことが始まりなんだとか。実は当財団の溝口理事長が当時の観光協会長で、自ら御者

となり観光客の方を楽しませていたそうです。パッカパッカと蹄の音を響かせてゆっくりと歩いている姿は、ほのぼのとしますよね。今年も、元気に頑張ってください。

蹄といえば、由布院駅構内アートホールでは現在、九州で唯一の蹄鉄師を追いかけた写真展が行なわれています。3月31日までの展示ですので、お時間のある方は、ぜひ足をお運びください。入場は無料です。



木綿の会INFORMATION



「私も会員です！」

菊地 昇さん/岳本

身につけ、今なお基本はそこにあるように思います。若い頃、師匠に出会えた事に今も助けられています。

どんな仕事でもそうですが、まず体力だと思うのです。人との出会いがあつても、体力がなければついていけません。体力がなければ、技術の向上もなく、知識を得ることもできないでしょう。

30年前、私はカメラマンという職業にあこがれ、東京に行きました。運良く一人の写真家と出会いました。今想えば、20代の頃の自分にはなんの知識も技術もあるはずもなく、写真を見る目、人との接し方、すべてその師匠から教わり、

現在、理事会・評議員会において、平成19年度の事業案を作成しています。

人材を育む環境を整えていく役割を担うものとして、湯布院地域に住む方が、より楽しく、明るく、真剣にこの町と向き合っていけるよう、話を深めていきたいと考えています。

平成3年に「人材育成ゆふいん財団」が発足して、まもなく16年目を迎えます。「子どもの頃、財団の事業に参加したよ」という方、設立に携わってくださった方、毎年たくさんの方々の寄付をくださっている方、そしてこれから関わってくださる皆様にお願いいたします。

今一度、人材育成ゆふいん財団を見つめ直し、さらにより良い事業を推進していくよう、事務局までご意見をどんどんお寄せください。また、新たに企画しているございましたら、財団へご一報ください。

より良い暮らしのため、次世代を担う子どもたちのため、『0歳から100歳まで』たくさんの方たちがこの湯布院で楽しく育っていけるよう、皆様のお力になりたいと考えます。

ご連絡、お待ちしています。

また、ボランティアスタッフも募集中です。得意とする分野から事業に参加していただければ幸いです。よろしくお願ひいたします。

《財団事務局：TEL 85-4748 / FAX 85-4759



平成18年度 会費納入状況

《お知らせ》

個人会員より167口

167,000円

団体会員より13口

130,000円

ご協力

ありがとうございます。

支えよう、育もう
これからの
マチづくり
ユメさがし

編集後記

3月2日、中学校の卒業式に行きました。久しぶりに体育館に入って、私の中学校時代の懐かしい思い出が頭をよぎってきました。私の学年は、今ある体育館が新しくなった初の卒業生でした。それから10数年…。今年、中学校時代の同窓会をしました。卒業式で先生方を驚かせたエピソードを先生の方から話していただき、よく覚えてくれているんだなあと嬉しく感じました。今年卒業した114名の生徒もここにたくさんの思い出を残していくことでしょう。一つ一つの思い出を、大切にしてください。

懐かしいといえばもう一つ。中学校校歌です。何も考えず当たり前のように歌っていましたが、久しぶりに歌ってみてなんだか感動していました。校歌3番をご紹介します。

「風みどり なびく湯煙り この郷土の 明日を担いて 自主自治の心は一つ 勉学に励む三歳よ
ああ我ら 誉れの母校 うたえいざ 湯布院中学校」

ここ湯布院のこれからを担っていく子どもたちが、この町で将来にわたり楽しく暮らしていくよう、地域のつながりを大切に育んでいきたいと、改めて感じました。

事務局＊後藤